

研 修 名	地域づくりボランティアコーディネーター養成講座		
主 催 者	下野市教育委員会生涯学習情報センター		
所 在 地	〒329-0433 栃木県下野市緑3-5-1		
連 絡 先	TEL 0285-40-0911	FAX 0285-44-6644	
推 薦 支 援 センター等名	下野市教育委員会生涯学習情報センター		
研 修 分 類	1 学校と地域の連携を内容とする研修プログラム	○	
	2 その他 ()		
研 修 コー ス	1 基礎コース	○	2 スキルアップコース ○
	3 その他 ()		

研修の実施に至る背景

近年、地域のコミュニティが希薄になりつつあることは周知の事実である。こうした背景には、地域の都市化あるいは価値観の変化によって個人主義傾向が強くなったことが考えられる。地域のコミュニティの希薄化によってもたらされた近所のコミュニケーション不足に起因した事件や、自由と我儘を取り違えて自己中心的な行動を繰り返す人々がいる。その影響で周囲の人々は更に不安を募らせており、異常な事件の多発や子どもたちの陰湿ないじめ問題など様々な形で具現化し、歪んだ社会を構築しつつある。今では人々の荒廃した心の問題を解決しない限り社会不安を取り除くことは難しく、そのためには生涯学習の持つ本来の機能である社会教育（社会道徳）によって地域コミュニティの再生を図る必要がある。特に、地域コミュニティの再生を図るには、住民が地域への興味を取り戻すことが必要であり、そのためには住民を牽引するリーダーが必要である。

地域コミュニティが希薄化する一方では、ボランティア活動が日増しに活発化している。ボランティアは、地域に根ざし、目的意識も高く、自発的な活動を展開し、様々な場所で個人的に活躍している人たちである。このような人々は、先述の地域コミュニティ再生の牽引役を担うに十分な力を秘めた人たちである。今後、地域コミュニティ再生に欠かせない人材として、地域行事など地域社会への参加を積極的に求めていく必要がある。

行政は、こうした地域に貢献するボランティアなどとの直接的な結びつきの機会をつくり、事業推進に当たっては、様々な調整や打ち合わせが必要とされる。このためには、両者の調整役としてコーディネーターが必要となる。現在、コーディネーターの数はボラン

ティア団体や自治会などの地域単位の数に比べ明らかに少ないのが実情である。

これまでは、地域コミュニティを考える時、学校を地域から切り離して考える傾向にあった。これは、学校に通う児童・生徒、PTA会員が地域の構成員であることを無視した考え方と言わざるを得ない。先述のとおり地域の活性化は、自ずと地域の構成員である住民の思考を変えることになり、必然的に学校も変わってくるはずである。

このように考えると、これから必要となるのは、学校支援を中心としたコーディネーターの養成を含む、学校と自治会や育成会などの「地域」とボランティアを結ぶコーディネーター活動を行えるようなコーディネーターの育成なのである。

これまで下野市では、学校とボランティアを結ぶ学校支援コーディネーターの育成に努めてきたが、こうした実情を踏まえ、今回は地域の活性化を担うコーディネーターの養成講座として実施することとなった。

研修の企画・立案

このため、今年度のコーディネーター養成講座は専門性の強い学校支援の部門を除いて、地域づくりという市民に馴染みの深いジャンルに焦点を当てたプログラムを企画した。現在の下野市に必要なのは、少数のスキルの高いコーディネーターに加えて、コーディネーター人口の拡大であり、今年度は地域づくりを中心とした講座を通して底辺拡大を目指すことを第一の目的とした。

企画に当たっては、コーディネーターの理論的な講座、実際の事例からの実践的な講座を行った後に、受講者が実際にイベントの企画を行うよう以下の内容で実践的なプログラム作成を目指した。

第1回 コーディネーターとは

講師 文教大学教授

大学教授によるコーディネーターの役割や必要なスキルについての講義

第2回 事例研究①

講師 栃木市民活動センター職員（コーディネーター）

インタビュアー 下都賀教育事務所社会教育主事

プロのコーディネーターによるコーディネーターの役割について、事例を通してインタビュー形式で学ぶ講義

第3回 事例研究②および事業の企画立案①

講師 下都賀教育事務所社会教育主事

事例研究②

『とちぎの協働事例集Ⅱ』に掲載されている協働事例をもとにコーディネートの実際とコーディネーターの役割を学ぶ講義

事業の企画立案①

事業の企画立案のための意見の合意形成手法について学ぶワークショップ

第4回 事業の企画立案②

講師 下野市生涯学習情報センター職員

講座前半に企画立案するに当たっての事業目的の設定方法、アイデアの整理やポイントの絞り方についての講義を行い、その後グループワークによって地域でのイベントの企画書を作成

イベント内容については、より実践的にするために実現可能な場所や対象を設定

第5回 事業の企画発表

講師 下都賀教育事務所社会教育主事

第4回講座で企画したイベント企画書のグループ発表

講座内容・講師選定については、下都賀教育事務所の相談業務を利用し、下野市側の講座の目的や開催の意図などを説明し、助言を受けて決定した。講座の内容は次のとおりである。始めに地域づくりにおけるコーディネーターの役割とは何かを学んだ後に、自分たちがコーディネートする事業提案を行うこととして第4回で事業の企画と第5回で企画のプログラムの発表を行うこととなった。そのために第1回でコーディネーターの役割を理論的に理解してもらい、第2回と第3回の事例研究で実際のコーディネーターの働きやコーディネートの実例に触れ、コーディネーターについての理解を深めるような講座を企画した。

研修の内容

①主催及び共催

主 催 下野市教育委員会
下野市生涯学習情報センター

②対象者及び定員

対象者 一般市民
定 員 40名

③研修プログラムの展開内容

会場 生涯学習情報センター（全回共通）

第1回 9月9日（火）

14:00(30分)	14:30(90分)	16:00(10分)
オリエンテーション 下都賀教育事務所 社会教育主事 下野市生涯学習情報 センター職員	講義 「ボランティアコーディネーターとは」 講師 文教大学教授	振り返り

第2回 9月25日（木）

14:00(120分)	16:00(10分)
事例研究①コーディネーターへのインタビュー 講師 栃木市民活動推進 センター職員	講義 振り返り インタビュー 下都賀教育事務所 社会教育主事

第3回 10月9日（木）

14:00(90分)	15:30(30分)	16:00(10分)
事例研究② 「協同事例集に学ぶ」 講師 下都賀教育事務所 社会教育主事	講義(グループ演習含む) 事業企画書の企画立案① 事業企画演習 講師 下都賀教育事務所 社会教育主事	振り返り

第4回 10月23日（木）

14:00(30分)	14:30(90分)	16:00(10分)
事業企画書の企画立案② 「事業企画のコツ」 講師 下野市生涯学習情報セン ター職員	講義 グループ演習 事業提案	振り返り

第5回 11月5日（木）

14:00(90分)	15:30(30分)	16:00(10分)
事業提案(グループ発表) ファシリテーター 下都賀教育事務所 社会教育主事	振り返り 各事業の評価	終了式

④研修の実施に当たってのポイント・留意点

第1回の目的は、コーディネーターがどのようなものかを知ってもらうことであつた。第2回については、コーディネートの実例を学ぶことにし、現役のプロコーディネーターに講師を依頼した。コーディネーターの役割やスキルを学ぶためには第1回のような実践を想定した理論的な学習が必要不可欠であり、実際に行われているコー

ディネート事例と理論と、自らが学習した理論の対比などを行うことで、より理解を深めることが可能と考え講座内容を設定した。

第3回については、これまでの講座でコーディネーター理論、実際のコーディネーターの役割を学んでいるため『とちぎの協働事例集Ⅱ』の様々な企画を題材にコーディネートの実際とコーディネーターの役割を学ぶことにした。次回講座の事業企画立案を行う際のイメージ作りを目的とした。また講座後半は、次回の企画書作成の練習として、合意形成手法を学ぶ簡単な事業提案型ワークショップを設定した。

第4回では、事業企画書作成に当たって、目的やねらいが散漫になるのを防ぐために、講座前半で事業企画についての方法や方向などについてのポイント整理のコツ、目標やねらいの設定方法の講義を実施し、後半では2グループに分かれワークショップで企画立案を行うようにした。

第5回は、ただの発表会で終わらないように、後半では、各グループの提案に対してファシリテーターを交えて各々の事業をお互いに批評をした。ファシリテーターは、養成講座全体の締めくくりに、事業企画書作成に当たってはコーディネーターの役割や必要性があることを受講者に説明することで改めてコーディネーターの役割を考えることができた。

研修の成果と今後の取組

今回の講座の目的は、地域のイベントなどのコーディネーターの養成にあったが、講座終了後、受講者の有志数名がコーディネーターのボランティア団体を立ち上げることになった。今後はこうして生まれた団体のバックアップやスキルアップ講座が必要である。

また、コーディネーターの活動を活発化していくためには、ボランティア団体結成のように市民意識を高めていく必要がある。このためにも、今後は、ボランティア入門講座や既存団体のスキルアップ講座も並行して行い、コーディネーターと協働して活動を行うボランティア団体の育成が必要になると考えている。



第2回講座
「コーディネーターへのインタビュー」



第4回講座
「事業企画のグループワーク」

執筆者職・氏名：下野市生涯学習情報センター 主査 下谷 淳

コーディネーターからの一言コメント

コーディネーターを養成することは、コーディネーターの果たすべき役割の領域が広いことから、ある程度の研修時間を確保する必要がある。この事例では5回の講座を企画し、コーディネーターの役割から、コーディネーターの実践研究、事業の企画、振り返りまで系統的に学習できるようにプログラム編成がされている。複数回の研修会を企画・実施をするにあたって参考になる事例である。

(木村 清一)